

●令和4年度「税に関する作文」西宮市長賞受賞作文

【題名】「税について」

【学校名・学年】西宮市立山口中学校 3年

【氏名】森脇 和音

「私は税金のために働いてるんか。」

これは、母の口癖です。私の両親は、二人共仕事をしています。母は、七人家族の食費や教育費を稼ぐためいくつかの仕事を掛け持ちしていて、私達を支えてくれています。「税金のために働く」という考えは、間違っていないと思いました。母がそう言うたびに、私はこう考えます。日々の生活でも、税金で教科書が配布されていたりするのでマイナスになっているわけではないのでは、と。私も物を買う時に、消費税を払っていますが、嫌だと思ったことは一度もないです。税金があるからこそ、この国の秩序を保つことが出来ていると思います。母が払った税金のおかげで、将来を創っていく子供達が育つ環境がつけられているかもしれないし、幼い子供達が楽しく遊べる公園がつけられているかもしれない。その他にも私達が出したゴミは税金によって処理されていたり、私達の安全を守ってくださる警察官や消防士の方々も税金があるからこそ活動することが出来ています。「税金のために働く」ということは、「自分やこの国の全ての人々のために働く」とことと同じだと思います。私はまだ、働いたことも自分でお金を稼いだこともありませんが、税金に対して悩ましい顔をしている母に感謝の気持ちを伝えたいです。伝えるだけでなく、少しでも母の負担を減らせるように家事などを手伝って、今日も仕事頑張ろうと思ってもらえるようにサポートしていきます。それが、今の私に出来る、精一杯の手助けだと思います。しかし、私もいつかは消費税以外にも色々な税を納めるようになります。その時には、「税＝自分や社会への投資」と考え、税を払いたいです。

「税金のため」と「自分や皆のため」ならば、後者のほうが快く前向きに働けると思います。考え方一つで、ものの見方は変わります。税金が無くなれば大変なことになってしまうとわかっていても、世の中には脱税をする人がいたり、母のように嫌々税を納める人もいます。母の気持ちはとてもよくわかります。税金を払わなければならないが、子供達に贅沢させてあげたい。という気持ちが少なからずあるのではないかと思います。それでも、母も、私も、皆も、税を納めます。この国が存在し成り立っているのは税があるから。つまり、私達は税を払うことで、日本という国で生きる権利を得ているのではないのでしょうか。私は将来、「税金を納めることで得る幸せのために」働き、これからも日本国民の一員として生きていきます。